



2021年8月5日

各 位

会 社 名

株式会社 ヨロズ

代表者名

横浜市港北区樽町三丁目7番60号

問 合 せ 先

代表取締役社長 平中 勉

(コード番号 7294 東証 第一部)

取締役副社長執行役員 佐草 彰

(TEL:045-543-6802)

中期経営計画に関する具体的な取り組み状況について

当社は、2021年5月14日に公表いたしました2021年度から2023年度の中期経営計画『Yorozu Sustainability Plan 2023』(以下YSP2023)の具体的な取り組み状況につきまして、以下のとおりお知らせいたします。

記

1. YSP2023の具体的な取り組み

当社は、YSP2023において、今後の中長期的かつ持続的な成長のための施策の一つとしてESG経営を掲げるとともに、ESG経営を通じてデータを活用するためのシステム整備を行い、企業体質の変革に向けたDX(デジタルトランスフォーメーション)を推進しております。本取り組みの具体的な方針として以下の事項を決定いたしました。詳細は添付をご確認ください。

(1) 「ヨロズグローバル環境ビジョン2040」の策定

当社は、「自然の恵みに感謝し、地球環境との調和ある成長を目指します」を環境理念に定めるとともに、2040年に向けての具体的な取り組みとして、気候変動対策のためのカーボンニュートラルへのチャレンジ、および限りある資源の徹底的な有効活用による持続的な循環を「ヨロズグローバル環境ビジョン2040」として策定いたしました。YSP2023の3カ年計画に新たに反映するとともに、中長期的な戦略づくりを進めています。

(2) DX(デジタルトランスフォーメーション)への取り組み

当社は、競争に勝ち続ける企業体質への変革に向けて、抜本的な業務改革とともに、その為の体制を整えてDXを積極的に推進しております。具体的には、アナログからデジタルへの移行「A2D (Analog to Digital)」、業務の効率化「V-DX (Vertical)」、そしてものづくり業務プロセスのデジタル連携「H-DX (Horizontal)」によって全ての業務のリードタイムの大幅な短縮を目指してまいります。

環境理念

『自然の恵みに感謝し、地球環境との調和ある成長を目指します』

ヨロズグローバル環境ビジョン2040

ヨロズグループは、世界の人々の豊かなくらしに貢献するため
環境課題の解決へ積極的にアクションいたします

- ・**気候変動** : 2040年までにカーボンニュートラルにチャレンジいたします
- ・**資源循環** : 限りある資源を徹底して有効活用し、持続的な循環を図ります

環境方針

1. 気候変動対策（製品、生産、その他サプライチェーン全体）
2. 廃棄物管理、化学物質管理、生物多様性の保全
3. 水資源の管理
4. 社会的要求を順守、及び環境マネジメントシステムの維持・向上



- ・アナログデータの撲滅
- ・デジタル技術を利用した個別業務の効率化
- ・業務プロセスをデジタル連携



- ・ルーチンワーク・重複作業の撲滅
- ・人は付加価値のある、価値を生み出す業務に集中



- ・リードタイムの驚異的短縮、圧倒的な競争力
- ・QCD劇的向上

DX推進の目的(概念図)

「モノ」から「コト」へ ⇒ 世界一のサスペンション専門メーカー

業務リードタイムの大幅な短縮

H-DX
(Horizontal)

ものづくり業務プロセスのデジタル連携

トータルプロダクションシステム

市場調査
技術開発

受注

製品設計
試作実験

工程設定

型・設備
製作

生産

品質保証

出荷

デジタルサイマル

業務の圧倒的効率化

ビックデータ ⇒ 可視化・分析 ⇒ AI

経営企画

人事総務

財務会計

原価管理

調達

内部監査

V-DX
(Vertical)

個別業務のデジタル化

A2D

(Analog to Digital)

DXの推進レベル

DX推進レベル	目的と方策
A2D (Analog to Digital) デジタイゼーション (Digitization)	アナログデータの撲滅 情報のデジタル化
V-DX (Vertical) デジタライゼーション (Digitalization)	個別業務の効率化 業務プロセスのデジタル化
H-DX (Horizontal) デジタルトランスフォーメーション (DX)	組織横断で大幅業務リードタイム短縮 全体の業務・製造プロセスのデジタル化



競争に勝ち続ける新たな付加価値・サービスの創造へ